

2017年度 第1四半期連結決算説明資料

2017年8月4日

ブラザー工業株式会社

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2017年度第1四半期 連結業績概要



単位：億円

	17Q1	16Q1	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率	
売上収益	1,677	1,575	102	6.5% (+7.0%)	
事業セグメント利益	175	201	-26	-13.1%	・在庫未実現利益の評価基準変更による消去額のマイナス影響等 (▲22億円)
事業セグメント利益率	10.4%	12.8%			
営業利益	126	211	-85	-40.3%	・在庫未実現利益の評価基準変更による消去額のマイナス影響等 (▲22億円) ・IFRS基準に基づき、前年度に前倒し計上した為替差益分のマイナス影響等 (▲10億円)
営業利益率	7.5%	13.4%			
税引前利益	130	211	-81	-38.5%	・ユーロ高・ポンド高及び、クロスレートの急激な変化に伴う為替予約の評価損が増加
四半期利益	91	153	-62	-40.4%	
換算レート					
USD	111.61	109.07		-	
EUR	123.14	122.47		-	

- ✓ P&S事業は、レーザー製品がグローバルで堅調に推移したほか、インクジェット複合機も、タンクモデルが堅調に推移
- ✓ 産業機器は、IT関連顧客向けの大口受注の効果に加え、自動車関連向けも堅調で、大幅な増収となる
- ✓ 事業セグメント利益は、P&S事業において、在庫未実現利益の計算方法を変更した影響 (▲22億円)を除けば、ほぼ前年並みの水準となる
- ✓ 営業利益は、四半期末にユーロが急激な円安となったことで、一時的に為替予約にかかる評価損が膨らんだことや、IFRS基準に基づき、前年度に前倒し計上した為替差益のマイナス影響などもあり、減益となる

© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

2

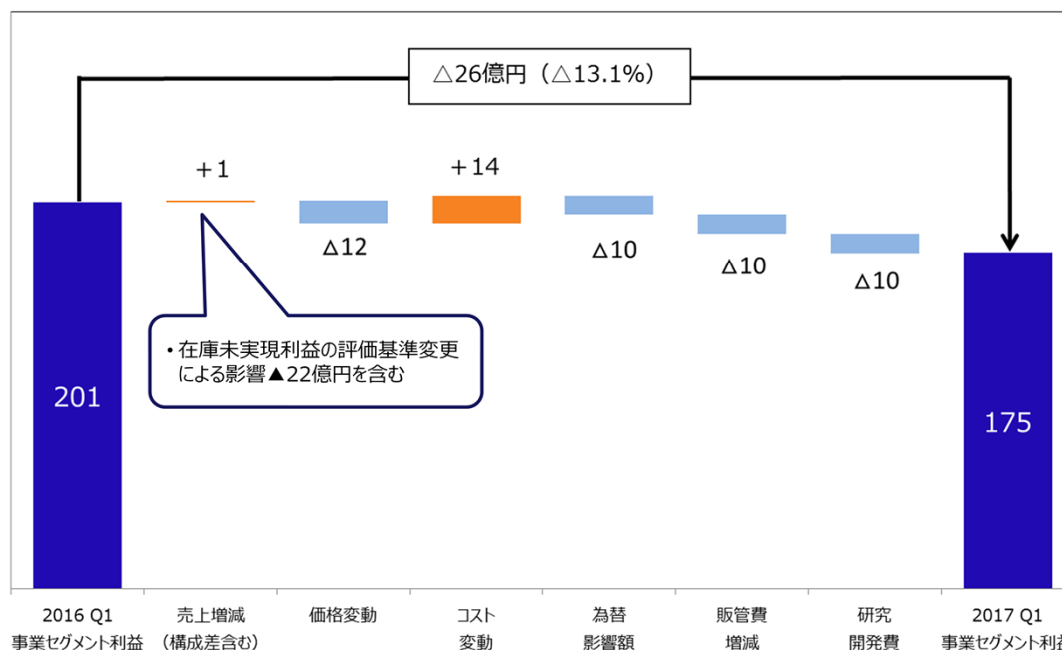
第1四半期の売上収益は、1,677億円となり、前年からプラス6.5%、102億円の増収となりました。売上収益における為替の影響は、前年比で約マイナス9億円でしたので、ほぼ影響はありませんでした。

事業セグメント利益は、175億円となり、前年から26億円の減益となりました。在庫未実現利益の計算方法の見直しにより、前年に比べ、▲22億円のマイナス影響がありましたので、その影響を除けば、実質的には、ほぼ前年並みの水準となりました。

営業利益は、四半期末にユーロが急激な円安となったことで、一時的に為替予約にかかる評価損が膨らんだことなどにより、前年から85億円、40%の減益の126億円となりました。ただし、先ほどの在庫未実現利益の計算方法の見直しや、IFRS基準に基づき、前年度に前倒し計上した為替差益のマイナス影響などの特殊要素を除けば、実質的には約25%の減益となります。

事業セグメント利益増減要因 <17Q1実績>

単位：億円



© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

3

売上増減の プラス1億円ですが、
ドミノ事業とマシナリー事業が、増収に伴い、合わせて30億円強のプラスとなりましたが、
P&S事業において、在庫未実現利益の計算方法の見直しにより、前年に比べ、約22億円のマイナス影響となった
ことや、製品本体の販売が好調なことで、昨年より比ベミックスが少し悪くなったことにより、
全体では売上増減・構成差の影響がほぼオフセットされ、プラス1億円となりました。

価格が変動したことによる利益へのマイナス12億円の影響ですが、大半がP&S事業におけるものです。
プリンティング市場の環境は安定しておりますが、中期戦略で注力しているSMB市場向けについては、欧州を中心に
大口案件が増えており、その影響が価格変動のマイナスというかたちで出てきております。

コストダウンによる利益へのプラス14億円の影響ですが、6割強がP&S事業、残りはP&Hとマシナリーとなります。

為替影響のマイナス10億円ですが、ユーロが8億円、ポンドが2億円ほどのマイナス影響となっております。
ユーロですが、連結の換算レートは昨年より少し円安だったものの、ブラザー工業の単体において、外貨取引に使用
している換算レートの算出方法が連結とは異なっており、そのレートが昨年より円高だったことにより、マイナスの
影響となりました。
年間では、基本的には連結の換算レートに対して、ユーロであれば1円円安になると、約8億円の事業セグメント
のプラス影響という感応度で計算して頂ければ大丈夫です。

販管費が増加したことによる利益の減少要因10億円ですが、
P&S事業は、収益力強化事業として、昨年よりも販管費が減少しております。
販管費が増加したのは、ドミノ事業とマシナリー事業です。主にこの2事業で、10数億円販管費が増加しております。

研究開発費が増加したことによる利益の減少要因10億円は、各事業まんべんなく費用が増加しております。

2017年度第1四半期 セグメント別概要



単位：億円

売上収益	17年度Q1	16年度Q1	増減率	為替影響を除く 増減率
全社	1,677	1,575	6.5%	7.0%
プリンティング & ソリューションズ	988	953	3.7%	3.0%
パーソナル & ホーム	93	95	-1.6%	-2.7%
マシナリー	291	230	26.5%	26.8%
ネットワーク & コンテンツ	112	126	-10.9%	-10.8%
ドミノ	164	144	14.1%	25.3%
その他	29	28	3.2%	3.2%

事業セグメント利益	17年度Q1	16年度Q1	増減率
全社	175	201	-13.1%
プリンティング & ソリューションズ	134	169	-21.1%
パーソナル & ホーム	△ 2	△ 0	-
マシナリー	25	19	35.3%
ネットワーク & コンテンツ	△ 1	4	-
ドミノ	16	9	84.9%
その他	2	2	19.2%
調整額	△ 0	△ 1	-

営業利益	17年度Q1	16年度Q1	増減率
全社	126	211	-40.3%
プリンティング & ソリューションズ	91	179	-48.9%
パーソナル & ホーム	△ 5	0	-
マシナリー	25	19	28.9%
ネットワーク & コンテンツ	△ 1	3	-
ドミノ	12	9	45.0%
その他	3	2	17.6%
調整額	△ 0	△ 1	-

2017年度 連結業績予想概要



単位：億円

	FY17 予想	前回予想	増減率	FY16	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	6,800	6,550	3.8%	6,412	6.1% (+5.0%)
事業セグメント利益	660	600	10.0%	608	8.6%
事業セグメント利益率	9.7%	9.2%		9.5%	
営業利益	625	600	4.2%	592	5.7%
営業利益率	9.2%	9.2%		9.2%	
税引前利益	620	595	4.2%	613	1.2%
当期利益	460	430	7.0%	472	-2.6%
特殊要因調整後の当期利益	460	430	7.0%	430	7.0%
換算レート					
USD	110.65	108.00		109.03	
EUR	123.43	116.00		119.37	

<業績予想の変更ポイント>

売上収益	為替の前提レート見直しによるプラス影響（約+200億円）を織り込み 好調な産業機器の見直しを引上げ（+43億円）
事業セグメント利益	為替の前提レート見直しによるプラス影響を織り込み（+60億円） P&S事業は、原材料高によるコストアップリスクなどを織り込み（△15億円） マシンリー事業の見直しを引上げ（+13億円）

© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

売上収益ですが、前回予想から250億円の引き上げとなる、6,800億円としております。
このうち、約200億円が、為替レートを円安方向に見直した影響です。

為替レートですが、
USDは、108円を110円に、ユーロは116円を123円へと変更しています。

事業セグメント利益は、前回予想から60億円の引き上げとなる、660億円としております。
ほぼ全てが、為替レートを円安方向に見直した影響です。

営業利益は前回予想から25億円の引き上げとなる、625億円としております。
事業セグメント利益の修正額に対して修正幅が少なくなっていますが、これは、
ユーロの期末想定レートを円安方向に見直したことによる、為替予約に関する評価損を織り込んだことが主な要因となります。

以上により、当期利益については、前回予想から30億円の引き上げとなる、460億円としております。

2017年度 連結業績予想 セグメント別概要



単位：億円

売上収益	17年度予想	前回予想	増減率	16年度実績	対前年増減率	為替影響を除く増減率
全社	6,800	6,550	3.8%	6,412	6.1%	5.0%
プリンティング & ソリューションズ	3,969	3,779	5.0%	3,836	3.5%	1.3%
パーソナル & ホーム	472	492	-4.1%	444	6.3%	4.0%
マシナリー	1,082	1,026	5.5%	909	19.0%	18.2%
ネットワーク & コンテンツ	497	500	-0.6%	497	-0.1%	-0.2%
ドミノ	664	628	5.7%	594	11.9%	12.1%
その他	116	125	-7.2%	131	-11.6%	10.9%

事業セグメント利益	17年度予想	前回予想	増減率	16年度実績	対前年増減率
全社	660	600	10.0%	608	8.6%
プリンティング & ソリューションズ	453	416	8.9%	457	-0.8%
パーソナル & ホーム	32	29	10.3%	20	57.0%
マシナリー	95	82	15.9%	62	53.8%
ネットワーク & コンテンツ	25	25	0.0%	22	12.9%
ドミノ	46	43	7.0%	42	10.1%
その他	9	5	80.0%	7	29.1%
調整額	-	-	-	-2	-

営業利益	17年度予想	前回予想	増減率	16年度実績	対前年増減率
全社	625	600	4.2%	592	5.7%
プリンティング & ソリューションズ	435	425	2.4%	455	-4.4%
パーソナル & ホーム	24	23	4.3%	19	27.6%
マシナリー	95	83	14.5%	60	58.9%
ネットワーク & コンテンツ	23	22	4.5%	9	169.0%
ドミノ	42	41	2.4%	44	-3.8%
その他	6	6	0.0%	7	-20.0%
調整額	-	-	-	-2	-

© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

6

<通信・プリンティング機器の**本体・消耗品別**の対前年売上伸び率（為替を除く）の内訳>

	Q1	通期
本体	+9%	+3%
消耗品	▲1%	▲1%

<通信・プリンティング機器の**印字カテゴリー別**の対前年売上伸び率（為替を除く）の内訳>

	Q1	通期
インクジェット	約+3%	約▲3%
レーザー	約+4%	約+2%

<通信・プリンティング機器の売上収益に占める**消耗品比率**>

	Q1	通期
消耗品比率	57%	59%

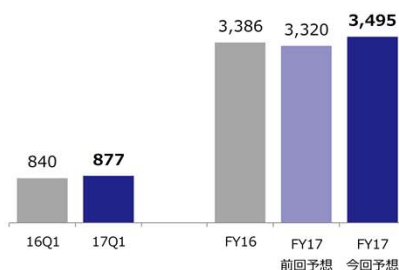
プリンティング&ソリューションズ事業 売上収益・事業セグメント利益

brother
at your side

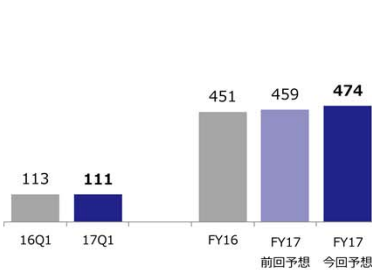
単位：億円

	16Q1	17Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY16	FY17 前回予想	FY17 今回予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	953	988	3.7%	3.0%	3,836	3,779	3,969	3.5%	1.3%
通信・プリンティング機器	840	877	4.4%	3.7%	3,386	3,320	3,495	3.2%	1.1%
米州	327	330	1.0%	-0.8%	1,283	1,276	1,315	2.5%	0.9%
欧州	252	265	5.1%	5.7%	1,076	1,068	1,137	5.6%	2.1%
アジア他	142	157	10.9%	9.6%	546	539	584	6.8%	4.2%
日本	119	125	4.6%	4.6%	480	437	460	-4.2%	-4.3%
電子文具	113	111	-1.8%	-2.5%	451	459	474	5.2%	3.1%
米州	54	52	-4.3%	-5.9%	214	220	223	4.0%	2.5%
欧州	33	32	-3.0%	-2.3%	132	133	140	6.5%	3.0%
アジア他	16	19	14.1%	13.1%	66	66	70	7.0%	4.6%
日本	10	9	-10.2%	-10.2%	39	41	40	3.8%	4.1%
事業セグメント利益	169	134	-21.1%	-	457	416	453	-0.8%	-
営業利益	179	91	-48.9%	-	455	425	435	-4.4%	-

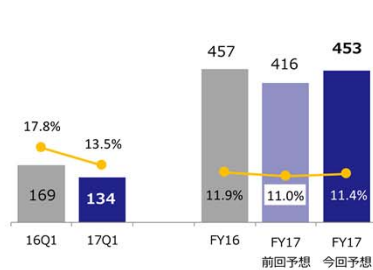
<売上収益> 通信・プリンティング機器



<売上収益> 電子文具



<事業セグメント利益>



© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

通信・プリンティング機器の第1四半期の売上収益は877億円で、現地通貨ベースでは対前年で3.7%の増収となりました。

伸び率の内訳は、ハードがプラス9%、消耗品がマイナス1%となりました。

地域別にみると、米州が若干のマイナスとなっている以外は、各地域とも比較的高い伸びとなりました。

背景としては、主にSOHOユーザーをターゲットとしたモノクロレーザーのコンパクトモデルの製品評価が高く、グローバルで販売が好調となっていることに加え、カラーレーザーも、モデルチェンジした高耐久製品の新製品投入による効果が現れていると見ております。

インクジェット製品も、収益性の高いタンクモデルへのシフトが、アジア・中南米で順調に進んでおります。

次に電子文具ですが、若干のマイナスとはなりましたが、ほぼ前年並みの水準と言ってよいと思います。

ラベルライターは総じて堅調なものの、昨年に比べると、モバイルプリンターなどの大口ソリューション案件が少なかったことが、マイナス要素となりました。

P&S事業の事業セグメント利益は、134億円となり、21.1%の減益となりました。

全体の損益の説明でも触れましたが、在庫未実現利益の計算方法の見直しにより、前年に比べ、22億円のマイナス影響があったこと、製品本体の販売好調による、ミックスの一時的な悪化が、減益の要因となりました。

通期の予想ですが、売上収益は、

P&S事業全体で、前回予想から190億円の上方修正となる、3,969億円としております。

修正幅の190億円のうち、7割強の約140億円は、為替レートの見直しによるものです。

残りの約50億円は、主に、販売が好調な通信プリンティング機器の製品本体の見直しを引き上げたことによります。

事業セグメント利益は、前回予想から37億円の上方修正となる、453億円としております。

うち、為替の影響は50億円程度のプラス要素となりますので、15億円弱、実質的には利益見直しを引き上げております。

これは、消耗品の販売見直しを若干引き下げた影響と、原材料高によるコストアップリスクを織り込んだ影響によるものです。

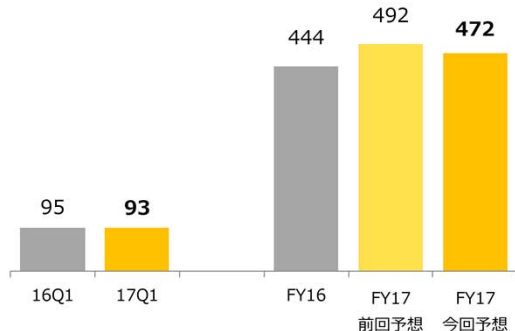
パーソナル&ホーム事業 売上収益・事業セグメント利益

brother
at your side

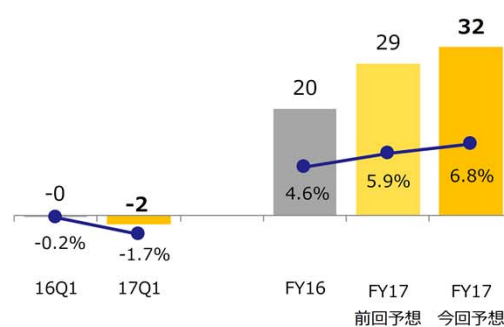
単位：億円

	16Q1	17Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY16	FY17 前回予想	FY17 今回予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	95	93	-1.6%	-2.7%	444	492	472	6.3%	4.0%
米州	49	49	1.3%	-0.5%	253	272	262	3.5%	1.4%
欧州	23	24	6.0%	6.0%	96	94	100	4.1%	0.2%
アジア他	15	13	-13.4%	-14.6%	55	59	60	9.5%	7.0%
日本	9	7	-17.5%	-17.5%	41	67	51	24.7%	24.4%
事業セグメント利益	△ 0	△ 2	-	-	20	29	32	57.0%	-
営業利益	0	△ 5	-	-	19	23	24	27.6%	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

第1四半期の売上収益は93億円、現地通貨ベースの伸び率では、2.7%の減収となりました。地域別では、アジアがマイナス14.6%となり、全体を押し下げる要因となっています。米州はほぼ前年並み、欧州はロシアの回復により、堅調に推移しております。

事業セグメント利益は、マイナス2億円となり、四半期赤字となりました。研究開発費など、先行投資が増加したことが大きな要因です。なお、営業利益がマイナス5億円となっておりますが、P&S事業同様、ユーロの為替予約の影響です。

通期の予想ですが、売上収益は、足下の状況を考慮し、前回予想から20億円の下方修正となる、472億円としております。事業セグメント利益は、為替レートの変更による影響を中心に、3億円の上方修正となる、32億円としております。

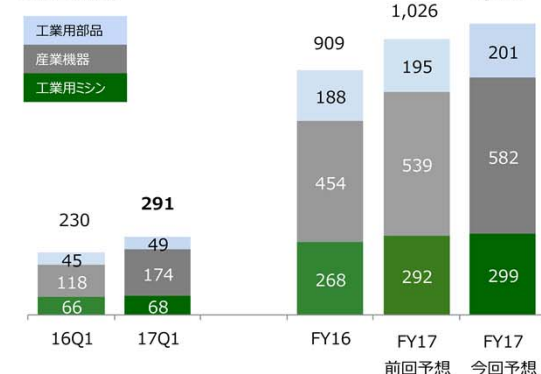
マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益



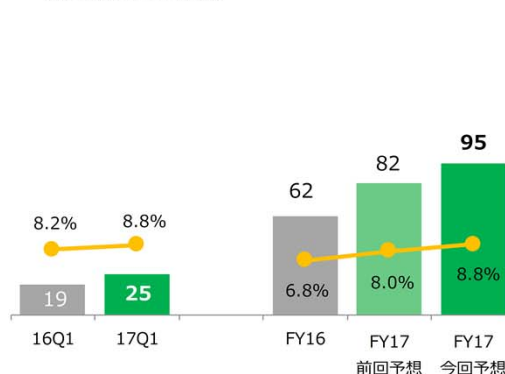
単位：億円

	16Q1	17Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY16	FY17 前回予想	FY17 今回予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	230	291	26.5%	26.8%	909	1,026	1,082	19.0%	18.2%
工業用マシン	66	68	2.7%	2.4%	268	292	299	11.6%	10.1%
産業機器	118	174	46.9%	47.7%	454	539	582	28.3%	27.9%
工業用部品	45	49	8.0%	7.5%	188	195	201	7.0%	6.5%
事業セグメント利益	19	25	35.3%	-	62	82	95	53.8%	-
営業利益	19	25	28.9%	-	60	83	95	58.9%	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

9

第1四半期の売上収益は、工業用マシンが68億円、産業機器が174億円、工業用部品が49億円となりました。

工業用マシンは、ベトナムやバングラデシュ、インドなどのアジア地域での需要が弱かったものの、中国は堅調に推移しました。また、欧州は、エアバッグなどの自動車案件が堅調に推移したほか、アフリカでのアパレル案件の獲得なども増収に貢献しました。

産業機器は、IT関連の大口受注の影響だけでなく、自動車関連の売上が順調に拡大しており、大幅な増収となりました。

工業用部品は、小型減速機、歯車とも、機械需要の拡大や、工場の自動化ニーズの拡大に伴い、堅調に推移しております。

事業セグメント利益は25億円となり、35.3%の増益となりました。好調だった産業機器と工業用部品が、増益に寄与しております。

通期の予想ですが、

売上収益は、前回予想から56億円の上方修正となる、1,082億円としております。

うち、産業機器は43億円の引き上げとなります。

上期を中心に、受注が好調な自動車関連向けの見通しを引き上げたほか、IT関連の見通しも引き上げております。ただし、下期以降のIT関連向けについては、引き合いはあるものの、受注が確定していないこともあり、業績予想へは織り込んでおりません。

事業セグメント利益は、主に産業機器の見通しの引き上げと、工業用マシンにおける、為替レートの変更による影響を織り込み、13億円の上方修正となる、95億円としております。

マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益（地域別）

brother
at your side

単位：億円

	16Q1	17Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY16	FY17 前回予想	FY17 今回予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	230	291	26.5%	26.8%	909	1,026	1,082	19.0%	18.2%
工業用ミシン	66	68	2.7%	2.4%	268	292	299	11.6%	10.1%
米州	13	13	0.2%	-1.7%	54	60	59	9.4%	7.3%
欧州	12	14	14.0%	13.9%	41	46	53	26.8%	22.3%
アジア他	39	39	-0.1%	0.1%	167	179	181	8.7%	7.9%
日本	1	1	5.2%	5.2%	6	6	6	5.1%	10.1%
産業機器	118	174	46.9%	47.7%	454	539	582	28.3%	27.9%
米州	7	7	1.7%	-	27	32	30	12.6%	-
欧州	5	8	58.6%	-	21	25	27	29.7%	-
アジア他	89	142	58.3%	-	334	397	448	34.3%	-
日本	17	17	0.7%	-	72	84	76	6.2%	-
工業用部品	45	49	8.0%	7.5%	188	195	201	7.0%	6.5%
米州	7	7	-4.4%	-6.3%	26	27	28	6.0%	4.1%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	4	5	11.6%	9.4%	17	19	20	13.9%	12.2%
日本	34	37	10.1%	10.1%	145	149	154	6.3%	6.3%
事業セグメント利益	19	25	35.3%	-	62	82	95	53.8%	-
営業利益	19	25	28.9%	-	60	83	95	58.9%	-

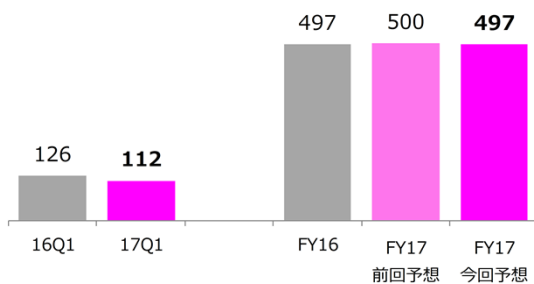
ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益



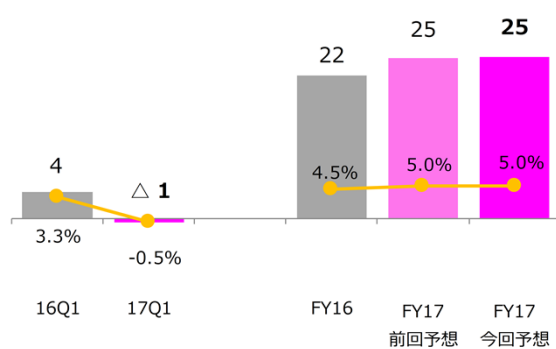
単位：億円

	16Q1	17Q1	増減率	FY16	FY17 前回予想	FY17 今回予想	増減率
売上収益	126	112	-10.9%	497	500	497	-0.1%
事業セグメント利益	4	△ 1	-	22	25	25	12.9%
営業利益	3	△ 1	-	9	22	23	169.0%

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

第1四半期の売上収益は、112億円、事業セグメント利益は1億円の赤字となりました。
7月から、カラオケボックス向けのカラオケ機器「JOYSOUND MAX 2」を投入することに伴う、旧製品の買い控えの影響が、減収、四半期赤字の要因となりました。
ただ、いずれの数字も期初時点の想定どおりで、計画通りの進捗です。
ということで、通期の見通しについても、ほぼ前回予想から変えておりません。

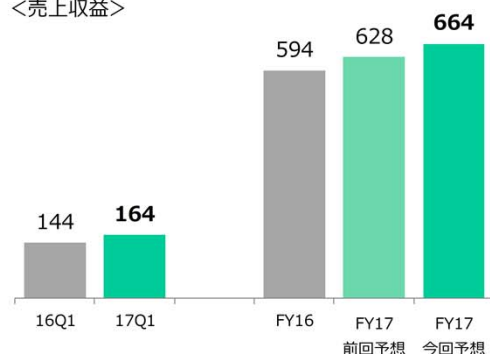
ドミノ事業 売上収益・事業セグメント利益

brother
at your side

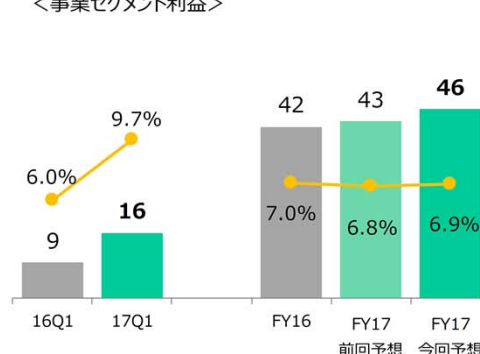
単位：億円

	16Q1	17Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY16	FY17 前回予想	FY17 今回予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	144	164	14.1%	25.3%	594	628	664	11.9%	12.1%
米州	33	41	21.4%	32.2%	150	154	164	9.0%	8.5%
欧州	71	78	10.3%	20.1%	283	304	321	13.6%	13.6%
アジア他	40	46	14.8%	25.0%	161	170	179	11.6%	11.4%
事業セグメント利益	9	16	84.9%	-	42	43	46	10.1%	-
営業利益	9	12	45.0%	-	44	41	42	-3.8%	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2017 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

売上収益は164億円となり、現地通貨ベースの伸び率では、25.3%の大幅な増収となりました。製品本体・消耗品別でも、どちらもバランスよく成長しております。

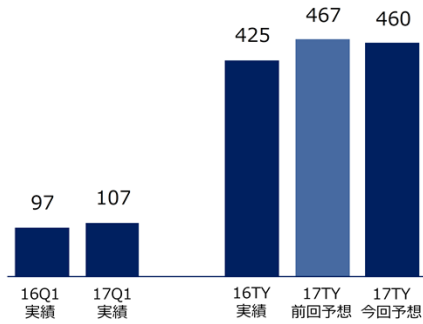
なお、決算短信にも記載している通り、第2四半期からの案件の前倒しがあった影響で、売上・利益とも実態よりかなり強い数字となっております。

ということで、第2四半期以降は、第1四半期のように高い伸び率が持続するわけではありませんので、ご注意ください。実力値としては、年間の伸び率を参考にしてください。

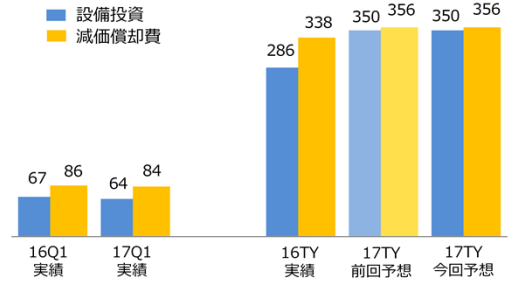
利益面も、増収に伴い、増益となっております。

通期の見通しですが、第1四半期は特殊要因もあり、強い数字となっておりますが、基本的には、売上・利益とも、為替レートの見直しの影響を反映しているのみです。

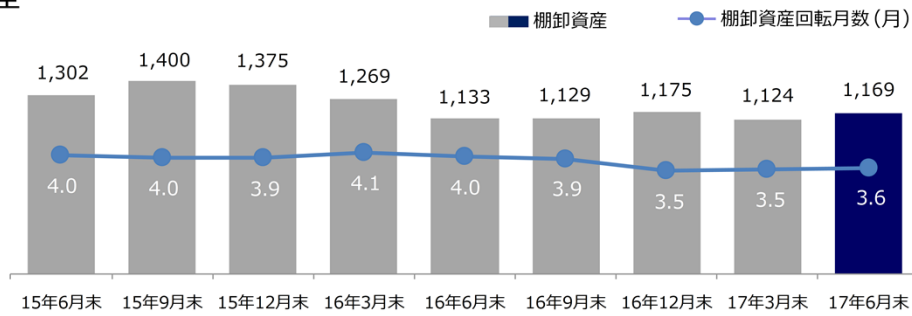
研究開発費
(億円)



設備投資・減価償却費
(億円)



棚卸資産
(億円)



※15年6月末の棚卸資産残高にはドミノ事業分を除外して表示しております
 ※棚卸資産回転月数 = 棚卸資産 ÷ (1ヶ月平均売上原価)

brother
at your side